

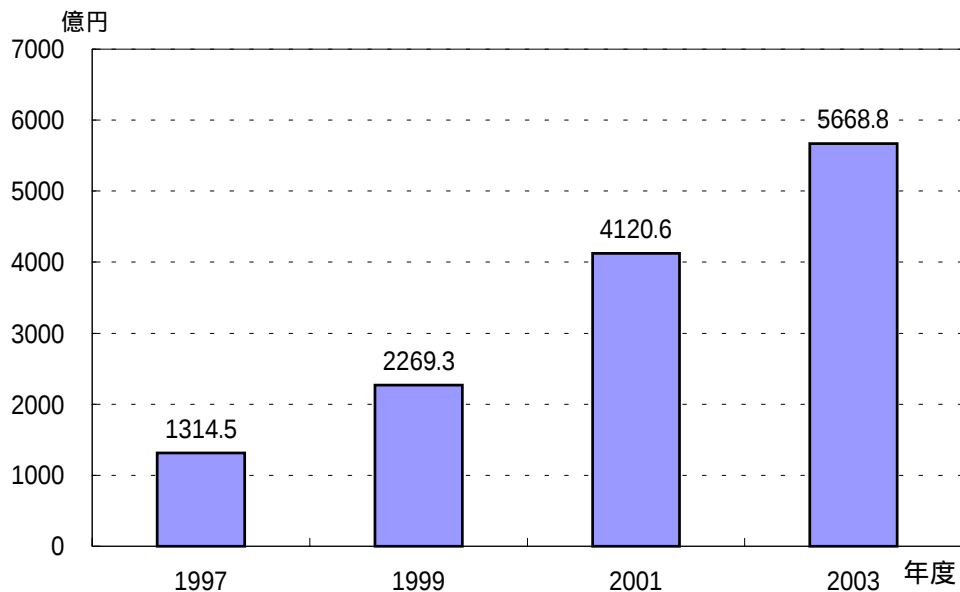
[調査結果の概要]

I. 市場規模

1. 規模の拡大

集計の結果、2003 年度特定保健用食品（以下トクホと記述する）の市場規模は 5,668.8 億円（メーカー希望小売価格ベース）となった。この金額は 2003 年 12 月時点でトクホ商品を持つメーカーが年度として推測した金額の集計であり、2001 年度に当協会が同様調査した結果（4120.6 億円）に比し、37.6%（1,548.2 億円）拡大した（図 1）。

図1. 推定市場規模の推移（2003年12月調べ）



2. 整腸関連以外の商品の急増

トクホ市場は、乳酸菌を中心とする整腸関連が牽引となって規模拡大を続けてきた。しかし、この 2 年間の整腸関連の伸びは僅か 8.2%であり、2001 年に 81.3%を占めた構成比も今回は 64.0%と低下した（表 1）。

大健闘したのは、ガムを中心とした歯関連、食用調理油（中性脂肪・体脂肪、コレステロール）、茶（血糖値、体脂肪）であり、保健の用途別にそれぞれ数百億円の市場が形成され、1 品目で 100 億円を超える商品も出てきた。乳酸菌以外のトクホ商品で、このように大規模商品が次々と開発されたのは、制度始まって以来のことで驚嘆に値する。ほかに、規模はやや下回るが納豆などの大豆関連商品（骨の健康）も健闘している。

今回は整腸関連が 1 位であることに変わりはないが、第 2 位は前回調査の 4 倍も伸びた歯関連で 14.2%、次いで中性脂肪・体脂肪関連の 11.2%の構成となっている。

乳酸菌を成分とするヨーグルト等は制度発足以前から大きな市場を持っていた商品であり多くは既存商品に対する表示許可であったが、今回台頭してきた上記の商品群はトクホ商品とし

て新たに研究開発された大型商品群である。いずれも、商品ライフサイクルから見て導入期または成長期にあり、今後更に伸長していくと思われ、トクホの新時代を築き上げていく期待の商品ばかりである。

表 1 . 保健の用途別市場構成

	金額の推移							構成比の推移(%)			
	1997 年度	1999 年度		2001 年度		2003 年度		1997	1999	2001	2003
		億円	97 比(%)	億円	99 比(%)	億円	01 比(%)				
オリゴ糖	103.7	91.1	87.9	56.2	61.7	66.8	118.9	7.9	4.0	1.4	1.2
乳酸菌等	978.8	1863.0	190.3	3171.1	170.2	3420.8	107.9	74.5	82.1	77.0	60.3
食物繊維	119.1	115.5	97.0	128.1	110.9	141.8	110.7	9.1	5.1	3.1	2.5
(整腸小計)	1201.6	2069.6	172.2	3355.4	162.1	3629.4	108.2	91.4	91.2	81.4	64.0
コレステロール	0.3	4.3	1264.7	27.9	647.7	113.6	407.9	0.0	0.2	0.7	2.0
血圧	13.8	71.6	517.7	100.0	139.6	88.1	88.1	1.1	3.2	2.4	1.6
ミネラル	92.0	44.9	48.8	113.9	253.7	120.1	105.4	7.0	2.0	2.8	2.1
歯	0	3.7	-	186.7	5046.8	804.8	431.0	0	0.2	4.5	14.2
血糖値	6.7	5.2	76.8	184.3	3572.1	277.4	150.5	0.5	0.2	4.5	4.9
中性・体脂肪	0	70.0	-	152.4	217.7	635.4	416.9	0	3.1	3.7	11.2
合計	1314.4	2269.3	172.6	4120.6	181.6	5668.8	137.6	100.0	100.0	100.0	100.0

3 . 流通チャネルウエイトと店頭状況

チャネルウエイトについては3度目の調査であるが、調査開始時以降大きなウエイトの変動はなく、一般の食品マーケットの趨勢と同様に、コンビニのウエイトがやや上昇している程度である(表2)。

前項のように最近開発された大型商品が主として常温保存品であることにより、量販店・コンビニでは、共同陳列が容易になり、また、店自主制作のPOP(商品説明表示)を掲出するなど、健康指向食品としてトクホの演出や販売促進に積極的になってきている。

表２．チャネル別市場構成

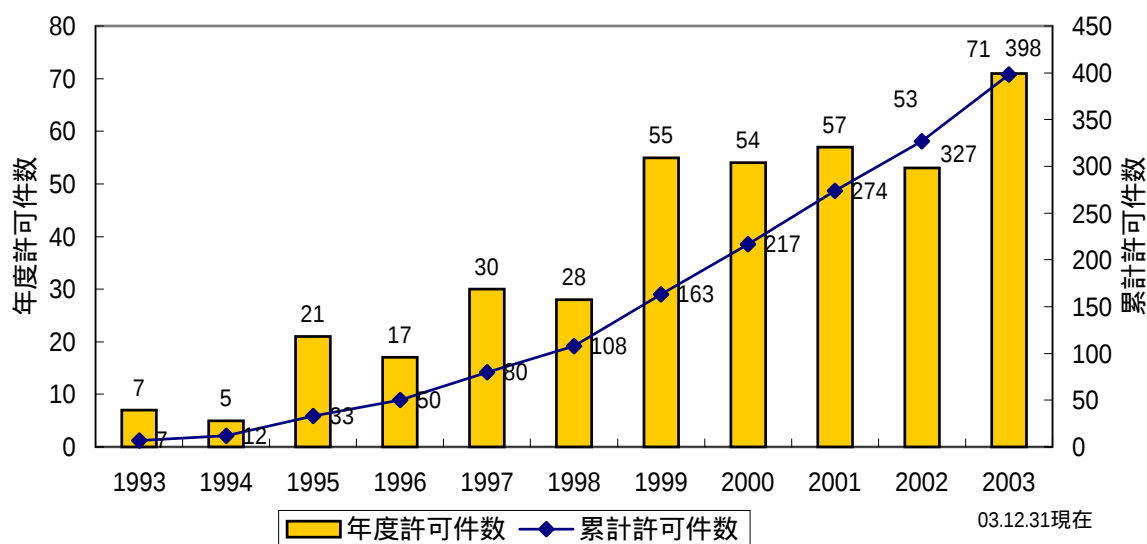
	1999 年		2001 年		2003 年	
	億円	構成比	億円	構成比	億円	構成比
スーパー・デパート	1120.0	49.4	1948.2	47.2	2287.8	40.3
コンビニ	286.5	12.6	600.9	14.6	884.0	15.6
戸配	698.0	30.8	1270.9	30.8	1948.0	34.4
食系ルート小計	2104.5	92.8	3820.0	92.6	5119.8	90.3
医薬品系	93.2	4.1	155.7	3.8	171.0	3.0
通信販売	16.1	0.7	39.7	1.0	44.0	0.8
その他	55.5	2.4	105.2	2.6	334.0	5.9
計	2269.3	100.0	4120.6	100.0	5668.8	100.0

II．表示許可・承認の現状

1．2003 年度の表示許可・承認は 71 品目となり過去最大、累計 398 品目

表示許可品目が 100 に達し、市場規模が 1,000 億円以上となった 1998 年頃から、食品、医薬品業界内では特定保健用食品に対する関心が高まり、許可申請は 1999 年度から急増した。2001 年には錠剤、カプセル等も認める剤型規制緩和があり、更に 2003 年 5 月には OEM 申請を中心に簡素化申請が実施されたこともあり、2003 年度は 12 月 31 日現在、既に過去最大の 71 品目が許可・承認され、累計 398 品目となっている(図 2)。

図2. 年度別許可・承認件数の推移



2．新しい分野の開発へ挑戦

(1) 血糖値、コレステロール、血圧、歯関連の著しい伸び(表 3)

1999 年には「保健の用途」別で整腸関連が 121 品目 70.8%の構成と極端な寡占の状況を示していたが、今回も第 1 位ではあるが、193 品目、構成は 48.5%と低下している(表 3)。今回の調査で目立って増加しているのは血糖値(30 品目)、コレステロール(15 品目)、血圧(14 品目)、歯(13 品目)の関連であり、整腸に次ぐ構成はコレステロール 13.1%、血糖値 12.3%の構成と続き、市場規模と同様に整腸以外の分野の開発が進み、構成は平準化してきている。

この 2 年間に新たに関与成分として取り上げられたのは、植物ステロールエステル、中鎖脂肪酸、茶カテキン、アミノ酸類、乳塩基性たんぱく質だけであって、許可品目数の増加に比べればやや少な目である。

表３．「保健の用途」「関与成分」別表示許可品目数

保健の用途	関与成分	品目数			構成比(%)		
		1999	2001	2003	1999	2001	2003
整腸	オリゴ糖	53	61	61			
	食物繊維	32	50	70			
	乳酸菌など	36	55	61			
	オリゴ糖・食物繊維	-	1	1			
整腸小計		121	167	193	70.8	57.8	48.5
整腸・コレステロール	食物繊維	3	9	17			
コレステロール	大豆たんぱく質	8	18	22			
	食物繊維	3	8	9			
	植物ステロール	-	1	2			
	植物ステロールエステル	-	1	1			
	植物スタノールエステル	-	-	1			
コレステロール小計		14	37	52	8.2	12.8	13.1
体脂肪	中鎖脂肪酸、茶カテキン	-	-	3			
中性脂肪	グロビンたんぱく分解物、EPA・DHA	1	2	4			
中性脂肪・体脂肪	ジアシルグリセロール	4	5	6			
中性脂肪・体脂肪、コレステロール	ジアシルグリセロール・植物ステロール	4	4	4			
中性脂肪体脂肪小計		9	11	17	5.3	3.8	4.3
血圧	ペプチド類	7	22	34			
	杜仲葉配糖体	2	2	3			
	アミノ酸類	-	-	1			
血圧小計		9	24	38	5.3	8.3	9.5
血糖値	食物繊維	3	14	41			
	ポリフェノール	-	1	1			
	小麦アルブミン	-	2	4			
	L-アラビノース	-	1	1			
	豆鼓エキス	-	1	2			
血糖値小計		3	19	49	1.8	6.6	12.3
ミネラル (Ca)	C P P	3	3	3			
	C C M	3	3	2			
	アミノ酸類	-	-	1			
ミネラル (Ca/Mg)	オリゴ糖	1	1	3			
ミネラル(Fe)	ヘム鉄	3	4	4			
ミネラル (Ca/Mg)・整腸	オリゴ糖	-	1	1			
ミネラル小計		10	12	14	5.8	4.2	3.5
骨 (たんぱく質)	大豆イソフラボン	-	3	5			
	乳塩基性たんぱく質 (MBP)	-	-	1			
	ビタミン K ₂	-	3	3			
骨小計		0	6	9	0.0	2.1	2.3
歯	糖アルコール類他	5	13	26			
歯小計		5	13	26	2.9	4.5	6.5
計		171	289	398	100.0	100.0	100.0

(注：本表の1999年及び2001年計には、その後、許可消滅した品目等が含まれている。)

(2) 「食品の種類」のバラエティ化

食品の種類では相変わらず飲料のウエイトが高いが、前述の通り、2001 年の保健機能食品の
 剤型規制緩和もあって、最近は錠菓をはじめ、表 4 . 注) に示すとおり、ケール加工食品、サ
 ーデンペプチド加工食品、豆鼓加工食品、大麦若葉加工食品など従来は考えられなかったい
 ろんな種類・形態の食品が表示許可を受けている。

表 4 . 食品の種類

	品目数			構成比 (%)	
	2001 年	2003 年	増減	2001 年	2003 年
清涼飲料等	96	138	42	33.2	34.7
乳酸菌飲料	66	74	8	22.8	18.6
豆乳類	6	8	2	2.1	2.0
テーブルシュガー	22	20	-2	7.6	5.0
米飯・麺・シリアル	18	23	5	6.2	5.8
油・酢・スプレッド	13	17	4	4.5	4.3
みそ汁・スープ等	13	19	6	4.5	4.8
肉・魚・大豆加工食品	18	18	0	6.2	4.5
菓子類	35	52	17	12.1	13.1
その他	2	(*)29	27	0.7	7.3
計	289	369	80	100.0	100.0

注) その他欄(*)の内訳

	品目数 (2003 年)
ケール加工食品	10
サーデンペプチド加工食品	10
かつお節ペプチド加工食品	2
オリゴ糖類加工食品	2
豆鼓加工食品	1
大麦若葉加工食品	1
乳清発酵物含有食品	1
食物繊維加工食品	1
カルシウム含有食品	1
小計	29

むすび

特定保健用食品は第 1 号商品が誕生してから 10 年経過し、その間、乳酸菌によるヨーグルトなど「おなかの調子を整える」食品を中心に推移してきた。最近、消費者の生活習慣病を回避するというトクホへの期待が強く、これに応えるべく開発された食品が定着してきた。中性脂肪・体脂肪、血糖値、コレステロール、歯に関連する食品（食用調理油、茶、ガムなど）である。これらは、身近な食品形態であることに加えて、トクホとして消費者ニーズに応えていると思われる。

いずれの食品も導入期・成長期にあり、更に大きく成長して、トクホの主演となっていくことは想像に難くない。中高年の生活習慣病の増加が懸念される折から、特定保健用食品は国民の健康な生活に寄与するという目的に今後ともより近づくことが期待される。

以上